

「きらめきの里」来春3月完成



平屋を中心とした住宅同様のスケールで周囲の景観に配慮 (きらめきの里完成予想図)

天童市 北東地域待望の介護拠点

天童市北東地域(天童北部・津山・山口・田麦野地区)の住民らが市に要望していた介護施設整備が市第6期介護保険事業計画Ⅱ2015(平成27)年から2017(同29)年までⅡに基づき、サービス提供事業者の選定が行われ、公募の結果、社会福祉法人みらい(志田泰久理事長)の地域密着型特別養護老人ホーム「きらめきの里」が採択された。施設は特養を中核にショートステイ、認知症対応型のデイサービスなどが併設され、「住む・泊まる・通う」機能が一堂に揃った介護拠点として地域の期待を集めている。現在、県道天童高尾山口線沿いの建設地で工事が進められており、9月30日に現地での地鎮祭が行われた。完成は来春3月、同4月に開所を予定している。

きらめきの里(約6700㎡)Ⅱ天童市山口4「施設は」入居者にとつての自宅であるべき」という志田理事長のコンセプトから、施設全体が住居の特養・ショートステイ棟を配置。建設主体は(株)丸吉奥山組(天童市)、実設計は(株)鈴木建築設計事務所(山形市)が担当する。施設の外観は山口地区の緑豊かな自然に溶け込ませる。利用中の機能低下を防ぐため、む和風モダンな佇まい。また、デイサービス(定員40人)は、主にリハビリを目的とした一般型と、認知症対応型(定員12人)を完備。全室個別浴ができる。一般浴槽に加え特殊浴槽4台も導入した。9月30日の地鎮祭には山本信治天童市長や地域の関係者らが出席。志田理事長はあいさつで「地域の皆様の協力で(北東)きらめきの里は来春3月完成。地域待望の施設整備が実現した。住み慣れた土地で安心して生活したい。ただ、質の高い介護サービスを提供していく」と話した。また、山本市長は「市の懸念であった北東地域の福祉施設の充実を嬉しく思う。地域住民に有効な施設となるよう期待している」と謝辞を述べた。これまで市は公民館単位で日常生活圏域を設定し、市内の介護サービス期介護保険事業計画で整備の方針が固まった。同計画によると2016(平成28)年には同地域で小規模多機能型居宅介護やグループホーム(認知症対応)の施設整備も予定されている。



施設中央の遊歩道



きらめきの里は来春4月開所を予定。同法人では「入居者の受付時期はこれから市と協議のうえで開始する予定で、現在は事前の相談受付を行っている」と話している。問い合わせは開設準備室 ☎023-651-3105(651)3105(担当/鈴木)まで。



地鎮祭で鍬入れを行う社会福祉法人みらいの志田理事長

職員採用

きらめきの里では、職員を募集中。「高齢者の皆さんが住み慣れた地域において、人間として尊厳を失わない生活を送ることができるように、常に相手の立場に立って考える介護」の理念に共感できる方を募集しています。

募集

- ①介護支援専門員
 - ②看護職員(看護師・准看護師)
 - ③生活相談員
 - ④機能訓練指導員(理学療法士・作業療法士)
 - ⑤介護職員(介護福祉士等)
- 資格、待遇、募集人数などの詳細については
開設準備室 ☎023-651-3105 (担当竹俣)まで